農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

貝塚市長

市町村名 (市町村コード)	貝塚市 (272086)
地域名 (地域内農業集落)	森 (森)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月10日 (第1回)

注1：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載して

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>・アンケート結果について 稲作・畑作に加え、果樹の生産が盛んな地域である。 17%の農業者が80歳以上の高齢者である。 現状耕作していない農地が11%、保全管理のみが22%、10年後「売却したい・委託したい・貸し出したい」農地が19%となり、農地の保全・管理が課題である。 担い手の確保・育成が課題である。</p> <p>・農地、農道について 接道している農地が多いが、幹線道路に近いので、農地にゴミを捨てられる問題がある。</p> <p>・水利関係について バイプラインがあり年中使用できる。「森大池」の水は夏場自由に使えるが、毎年冬に全て抜くため、一部農地では冬季の水利用ができないという課題もある。 宅地の混在により水路に生活排水が混入していることもあり、町会で水路清掃を行っている。 水の管理者（水引）が不在であることも課題である。</p> <p>・その他について 農業経営のコストが高額であり、農業者の高齢化により専業農家が減少している。 宅地の混在に伴い農地や農作業への苦情が多くなり営農しにくくなっているが、地域の農業者同士や他地域の農業者との関係性は良い。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>・地域作物について 水稲と、畑作では「たまねぎ」と「きくな」が栽培されている。</p> <p>・栽培、承継等について 専業農家や後継者が少なく地域出身者のみでは作物の承継が難しいが、農業や農地について地域の理解を深めることで地域作物を継続して栽培できる環境を作る。</p> <p>・その他課題について 冬場の水利用状況改善のためバイプラインや池の再整備について検討する。 田植前の時期に行う地域での水路掃除は継続する。 耕作放棄地の解消のため、まとめて整備ができれば企業誘致や貸農園としての活用を検討する。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	4.9 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	4.9 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積) 【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方（範囲は、別添地図のとおり）

農用地については農業上の利用が行われるものとする。

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針

地域の農業者へ集積・集約する方針であるが、耕作放棄地の増加を止めるには他地域の農業者の参入も必要との声もある。

(2) 農地中間管理機構の活用方針

農地中間管理機構の制度を利用した圃場整備について研究する。

(3) 基盤整備事業への取組方針

隣接地区と共同での整備を検討してはとの意見あり。

(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針

今後耕作放棄地となる農地を貸農園として利用することを検討し、利用者の確保を進める。

(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

利用可能なサービスがあれば利用を検討する。

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	☐	③スマート農業	☐	④細地化・輸出等	☐	⑤果樹等
☐	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	☐	⑧農業用施設	☐	⑨耕畜連携等	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】